

---

# 鳥かご

山羊ノ宮

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

鳥かご

### 【コード】

N7054P

### 【作者名】

山羊ノ宮

### 【あらすじ】

薄暗い闇の中、金属で出来た大きな鳥かごの中に彼女はいた。

「お願い。助けて。ここから出して」

彼女は涙を流しながら、嘆願する。

薄暗い闇の中、金属で出来た大きな鳥かごの中に彼女はいた。

「お願い。助けて。ここから出して」

彼女は涙を流しながら、嘆願する。

「外に出たところで何もいい事はない。どうか諦めておくれ」

私は彼女にそう諭す。

だが、彼女は泣き止みはしなかった。

「何も自由である事は幸福である事ではないのだよ。傷つき、もう二度と立ち上がれなくなるかもしれない。外の世界には不安と恐怖が渦巻いている。それでも外に出たいと言うのかい？」

私は彼女にそう諭す。

けれど、彼女は泣いてばかりだった。

「お願い。助けて。ここから出して」

そう繰り返すのだ。

私はため息を一つ付いて、懐から鍵を取り出した。

鳥かごの鍵だ。

そして、私は八十二ある工程を踏んで、鳥かごの鍵を外した。

「さあ、これで自由だ。だが、これで私は何もしてやれなくなる。

あとは好きにすると良い」

「ありがとう。ごめんなさい」

彼女は空へと羽ばたいた。

自由になった彼女へ様々な声がかげられた。

私は空になった鳥かごに背を預け、へたり込んでその様子をじっと見守っていた。

空は青い。

遠く見える彼女はもう戻りはしない。

私の胸の中にはただ空漠感があるだけであった。

それから来る日も来る日も空を眺め続けた。

何もする気など起きはしなかった。

目の中に空を写し込むだけ。

そんなある日。

背から、何も無いはずの鳥かごから物音がした。

振り返ると卵が。

今まさに殻を破り、何者かが生まれ出さるうとしていた。

もしかして彼女の子だろうか？

私の胸に巣食う乾きを潤すため、頬を雫が一滴這いずり、地面に落ちた。

赤子が産声を上げた。

そして、この子もまた私と言う檻の中から出たがるようになるのだろうか。

そう思うと、私の口の中は塩と鉄とでないまぜになるのであった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7054p/>

---

鳥かご

2010年12月31日01時49分発行